

酵母を用いたプリオン病異種間感染機構の解明

研究開発分担者： 国立研究開発法人理化学研究所 田中 元雅

二つの異なる酵母種由来の酵母プリオン蛋白質Sup35NM

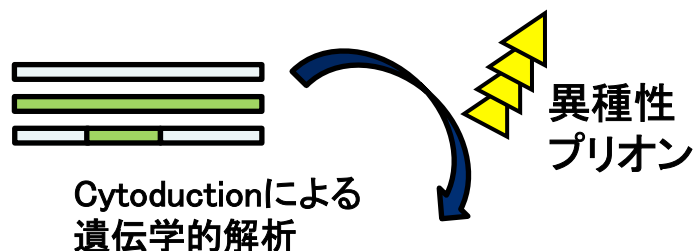


各種キメラ体の作成

(1) モノマー構造の解析 (in vitro):
モノマー状態での局所構造や揺らぎ
→ 共凝集反応への影響は？



(2) プリオン感染実験 (in vivo):
異種性プリオン凝集体との異種間
プリオン感染能は？



異種間プリオン感染性を決定するアミノ酸配列や構造因子の解明

解説

1. 相同性が50%程度の二種類の酵母種由来のSup35NMモノマーを用いて、モノマー構造の揺らぎや構造の違いをアミノ酸レベルで明らかにした
2. 相同性が50%程度の二種類の酵母種由来のSup35NMを用いて、異種間プリオン感染に関わるアミノ酸領域や局所構造を同定した